

【 論述 】

第 1 問（必須問題）

問 1

大阪・関西万博は、世界各国の来訪者に対して地域の食文化を発信する絶好の機会となった。食は単なる消費対象ではなく、その土地の歴史や風土、人々の暮らしを体験的に理解するための重要な観光資源である。万博において地域の伝統食や発酵食品、地場産業の技術、さらにはフードテックやサステナブルな食の取り組みを組み合わせ提示することで、来訪者は大阪・関西地域の魅力を体感できた。

また、食文化は観光動機の形成や滞在満足度の向上に大きく寄与する。万博会場で地域食材や郷土料理に触れた来訪者が、実際に産地を訪問することで周遊観光や地域消費の拡大につながることを期待される。さらに、生産者や料理人との交流を通じて地域への理解が深まり、食文化の継承にもつながる。

持続可能なフードツーリズムを推進するためには、万博を一過性のイベントとして終わらせず、地域食文化の情報発信を継続することが重要である。デジタル技術を活用した多言語情報の提供、生産現場や食体験を組み込んだ観光プログラムの開発、地域事業者間の連携強化を進めることで、地域ブランドの確立と文化継承、地域経済の活性化を両立する持続可能なフードツーリズムの実現につながる。

問 2

道の駅は近年、休憩機能に加えて地域文化を発信する文化観光の拠点として重要な役割を担っている。地元農産物や郷土料理の提供、伝統工芸品の展示・販売などを通じて、来訪者に地域固有の文化や歴史を伝える場となっている。また、地域住民と観光客の交流を促し、地域への理解や愛着を深めている。

文化観光の観点からは、道の駅は地域文化を「見る」だけでなく、「食べる」「体験する」「交流する」といった形で体感できる点に特徴がある。その結果、地域経済の活性化だけでなく、地域住民が自らの文化的価値を再認識する契機となり、文化継承意識の向上にもつながる。

一方で、観光客の獲得を優先するあまり、文化資源が商業化・画一化され、地域固有性が失われるおそれがある。また、担い手不足や財政制約により、継続的な運営が困難となる課題も存在する。

今後は、地域住民や文化継承団体、行政、観光事業者が連携し、地域固有の文化価値を尊重した運営を行うことが重要である。デジタル技術による情報発信や多言語対応、体験型プログラムの充実を進めることで、地域文化を継承・発信する拠点としての機能を強化し、地域文化の持続的な継承と地域活性化の両立を実現できる。

第2問（選択問題）

【問題1】

（1）地域資源を活用した観光コンテンツの創出

本県の観光まちづくりを進めるためには、地域資源を単に見せる観光から、体験を通じて理解を深める観光へと転換することが重要である。例えば、自然環境を生かしたエコツーリズムや、歴史や文化を地域住民が語るガイドツアーを実施することで、観光客の満足度向上が期待できる。観光事業者は魅力ある商品造成を担い、地域住民は案内や体験提供に関わることで地域への誇りを高めることができる。地方自治体は人材育成や情報発信を支援し、三者が連携することで、地域の価値を継続的に生かした観光コンテンツの創出が可能となる。

（2）観光を通じた交流人口・関係人口の創出

観光まちづくりにおいては、一時的な来訪者を増やすだけでなく、地域と継続的に関わる関係人口を育てることが重要である。例えば、ワーケーションや教育旅行の受入れを進めることで、訪問者が地域の人々と交流する機会を増やすことができる。観光事業者は滞在型プログラムを企画し、地域住民は交流イベントなどを通じて来訪者を受け入れる役割を担う。自治体は情報発信や受入体制の整備を行い、観光をきっかけとした人のつながりを深めることで、将来的な移住や地域活動への参加につなげることが期待される。

（3）観光と地域生活の調和

持続可能な観光まちづくりを実現するためには、観光の振興と地域住民の生活との調和を図ることが不可欠である。観光客の増加により混雑やマナー問題が生じる場合には、ルールの明確化や啓発活動を行う必要がある。観光事業者は適切な受入管理を行い、地域住民の意見を反映した運営を心がけることが求められる。自治体は観光客数の分散化や情報提供を進め、住民負担の軽減を図る役割を担う。地域全体で合意形成を重ねることで、観光が地域の暮らしを支える持続可能な仕組みとなる。

【問題 2】

「ナラティブストーリー」とは、ナラティブの持ち主の経験を、より深く理解しようとするためのものである。Aさんのナラティブストーリーとは、Aさんが自ら紡いだ物語という意味である。それは、Aさんが経験したことを時系列に羅列したものではなく、Aさんの過去の大切な思い出や未来への希望を軸に、Aさんの視点から再構成されたストーリーであるといえる。

Aさんのストーリーを聴くなかで、Aさんが「思い込んでいる物語：ドミナントストーリー」である可能性を考える。ドミナントは支配や囚われ、主観的な事実、自己否定として表出される。ドミナントストーリーは否定をせず、傾聴し、問題を本人から切り離し、客観的に見つめ直す（外在化）。その後、新しい視点や考え方を見つけ出し、前向きな別のストーリーへと上書きしていく。これをオルタナティブストーリーという。

Aさんの埋もれている体験をドミナントストーリーのなかから見つけ出し、そこからオルタナティブストーリーと一緒に紡いでいくというアプローチが、ナラティブアプローチである。